最新第2巻　いよいよ発売!
いま咲き誇る　思春期に揺れる
多感な高校生たちの青春群像劇

よしながふみ先生インタビュー

ドラマ化になった「西洋骨董洋菓子店」をはじめ、その繊細なキャラクター描写で女性読者に絶大な支持を持つよしながふみ先生に今回はインタビューして来ました。実は「とらだよ。」SD・つか素は恥ずかしながら昨年になってはじめてよしなが先生の作品を読んだんですが、どの作品も「読ませる」内容でイッキにハマってしまいました。今回はその中でも「とらだよ。」読者なら思わず共感してしまう(?)独特なオタクキャラ・真島が人気の学園コメディ「フラワー・オブ・ライフ」を特集します。

「フラワー・オブ・ライフ」よしながふみ
「ウィングス」(新書館／毎月28日発売)にて好評連載中!
コミックス第1巻～第2巻(各定価746円(税込み))好評発売中!
パラレル時代劇読み切り「大奥」(月刊「メロディ」7月号(白泉社/5月28日発売)に掲載
本誌連載中 門脇舞さんのコラムでも紹介!「愛がなくても喰ってゆけます」(太田出版)好評発売中!

既刊好評発売中!(こちらに掲載できなかった作品も傑作ぞろいです。ぜひ読んでください!)
「愛すべき娘たち」(白泉社)「それを言ったらおしまいよ」(太田出版)
「こどもの体温」「彼は花園で夢を見る」「西洋骨董洋菓子店」(全4巻)(以上、新書館)

「フラワー・オブ・ライフ」掲載誌「ウィングス」に関する最新情報はここでチェック!
＜新書館　公式サイト＞
http://www.shinshokan.co.jp/

花園春太郎
白血病の治療のため1年1ヶ月遅れて高校に入学した高校生。
侠気なことが大好きな一方で登校初日に翔太の愛らしさにドキドキする一面も持つさわやかな男の子。

真島海
「萌え」の世界だけを中心に生活するようになってしまったスーパーオタク高校生。
他人に合わせるのが嫌いで、クラスの中でも三国以外とは関わらないようにしている。

斉藤滋
男性のようなルックスのコンプレックスから自分を女性に見せようとするため、オカマのような仕草になってしまった1年D組の担任。
小柳先生とは不倫の間柄だが、ある人物との関係でそれも今後は?

三国翔太
そのぬいぐるみのような「ちび+丸っこい」風貌から春太郎をはじめ、みんなから愛される高校生。
真島とは中学からの付き合いで、クラスで唯一の理解者。

武田隅子
趣味の少女漫画を描いていたノートを真島に拾われてから生活が一変した彼女。
以前は貞子のような髪型だったが、文化祭の劇ではヒロインを務めるなど実はスゴイ美人な女の子。

小柳修一
男性のようなルックスのコンプレックスから自分を女性に見せようとするため、オカマのような仕草になってしまった1年D組の担任。
小柳先生とは不倫の間柄だが、ある人物との関係でそれも今後は?

1年D組のクラスメイト
女性にも関わらず侠気のあるクラス委員の山根さん、いつもなにか失敗しちゃうけど憎めない相沢さん、お調子者の辻くんとその友達の尾崎くんなどなど、個性豊かな1年D組の仲間たち。

■「フラワー・オブ・ライフ」作品解説■

白血病の治療のため、1年と1ヶ月遅れて高校に入学することになった花園春太郎。そんな彼が通う1年D組はどうみてもオカマにしか見えない担任の滋(斉藤先生)をはじめ、ぬいぐるみのような愛らしさを持つ翔太、傍若無人な性格のオタク・真島など個性派揃い。にぎやかなクラスメイトに囲まれ、夏休み、期末テスト、文化祭など高校生活を楽しむ春太郎。2学期、3学期と続く彼らの高校生活に今度はどんな事件が起こるのか!? 魔性(?)のオタク・真島のぶっ飛びぶりにはオタク漫画を読み慣れた『とらだよ。』読者もきっと彼の虜になること間違いありません!
他にも少女漫画好きの眼鏡っ子美少女・武田さんなど個性豊かなキャラクターがとても魅力的なこの作品、ぜひ読んでみてください!

「下種(げす)!! 本ッ当に下種ね　あなたは!!」

萌えツボを刺激されても、揺るがないアイデンティティ
恋に落ちるのでなく、人道に外れた真島ならではの一言

同人誌を知らない純粋培養な少女漫画ファン
武田さんにイマドキのBLを指導する真島
その特訓の成果は果たして?

芝居に出る代わりに真島が出したプライスレスな条件
満願を成就した真島の次なる野望は?

交わることは出来ないけど、近づこうとする二人の心
春太郎と翔太が本当の友達になった瞬間ともいえる1コマ

突如催されたサプライズパーティー
それに対する主賓・真島の反応は?

様々な思いをのせて、遂に始まった文化祭!
真島&武田 二人が演じるラブシーンの結末は?

編集:まずこの「フラワー・オブ・ライフ」(以下、「フラワー」)を描くことになったきっかけを教えてください。
よしなが先生:以前から「ウィングス」さんでは描かせてもらっていたんですけど、この「フラワー」の前まで「ウィングス」という雑誌の対象読者のことをあんまり考えていなかったんです。それまではボーイズラブで描けないものを描いていこうと考えていたんですけど、「フラワー」の前に描かせてもらった「西洋骨董洋菓子店」(全4巻ドラマ化作品。以下、「西洋骨董」)という作品を描いている時にふっと頭をよぎりまして、「対象読者っていくつぐらいが中心なんですか?」って聞いたんです。そうしたら「10代後半の女の子達です」って言われてビックリしまして(笑)。「西洋骨董」って、4人の内3人が30代なんですよ。それまでは何も考えずに自分が読むつもりで描いていたんですけど、それを聞いてものすごく若い読者が読む雑誌なんだってことが分かったんで、次の連載ではキャラクターの年齢を半分くらいにしようとマズイですね、って話していたんです(笑)。それで年齢的に高校生ということで、学園モノにしましょうってなったんです。

キャラクター設定などはどんな感じで決めていったんですか?
最初に漠然と学園モノって決まってから、主人公、春太郎についてはすごくスタンダードな主人公らしい男の子にしようと考えたんです。それから何か病気をしていたけど、それにそぐわない明るい性格という設定を決めました。
翔太については太った人が好きなので、太った キャラクターをどうしても入れたかったんです。だけど主役だとキツイかなって思ったんで、じゃあ親友の男の子が太った子がいるってことで、ちょっと「ふかふか」の子にしてみたんです。
もう一人の真島なんですけど、オタクの人が、まあ自分もオタクなんですけど、好きなんで出したかったんです。ただ翔太がふかふかな子なんで、バランス的にもう一人のキャラは読者の女の子たちに対して絶対的にビジュアルをサービスしたキャラじゃないといけないと思って顔だけは美しくしました。
真島はオタクでもきっと顔さえ美しく描けば女の子達も好きになってくれるんじゃないかみたいな願望っていうか、本当に願望なんですけど、「好きになってくれるといいな～」みたいな感じで綺麗に描いた感じのキャラですね。

太った人が好きというのは「愛がなくても喰ってゆけます」(太田出版)でも仰っていますね。
ええ、本当に好きなんですよ(笑)。私は翔太君のことを可愛いと思っているので、なんかぬいぐるみみたいな愛されキャラみたいな感じで描きたいなって思っているんです。

「愛がなくても喰ってゆけます」といえば、印象的なのがYなのFみの素顔なんですけど、かなりすごいですね?
「稲中」(『行け!稲中卓球部』古谷実先生/講談社)が好きなので(笑)。

「フラワー」の話に戻りますが、今迄の作品に比べて登場人物が多いと思ったんですがどうですか?
やっぱり学園モノなんで、メインの3人だけでなく、クラスメイトや先生とか考えました。特に最初の頃から考えていたのが滋なんですよ。滋は私が『ベルサイユのバラ』池田理代子先生/集英社)が好きでなんか男装の麗人を出したいって思って、それっぽいキャラを一人ということで描いたキャラなんです。ちょっと男装の麗人って言うには「あれ?」って思われるかもしれませんけど、私的には描きたかったキャラですね。
私として学園モノを描くからには、高校生など思春期にあるその時特有の小さい人間関係の行き違いとか、お友達に言わずがなのことを喋ってしまったとか、そういう日々日常の、でも彼らにとってはとても大きい事件のようなことを描いていきたいと思っていたので、クラスメイトなどについてはだいぶ考えました。

最初から共学にしようと思っていたんですか?
共学にすることはは じめから決めていました。読者の方も女性がメインですし、私自身が男子校のことがわからないってこともあるんですけど、本当に普通の高校にしようって思いました。

文化祭の話(第8話)とかで学校中がすごく盛り上がっていますけど、このへんは先生ご自身の経験などが活かされているんですか?
そうですね、昔の自分の高校に近いです。
文化祭も本当に漫画と同じようなことをやったんですよ。なぜかものすごく劇が盛んでそれこそ『ベルばら』もやったし、『ガラスの仮面』に出てくる劇中劇の『二人の王女』もやっているクラスもあったんですけど、私のクラスはオペラが流行っていたからなんですけど『アイーダ』とかやっていました。
私自身は漫研で会報と かを作っていたんですけど、そういった文化祭のノリは漫画に活きていると思います。

キャラクターについてもう少し伺いたいんですが、やっぱり真島がこの雑誌の読者にウケると思うんですけど、あそこまで飛ばした設定にしたのはどうしてですか?
ちょうどこの漫画の打ち合わせをやっていた頃は『ケニスの王子様』が流行っていていろんでいたんですけど、それで手塚部長っていうキャラが格好良さそうだな、なんかこんな感じでメガネにすれば女の子も好きになってくれるかなって思ったんですけど、実際に描きはじめたら、手塚部長でなくて、乾っていう別のキャラに近くなっちゃったんです(笑)。それで「あぁ私って、こっちのキャラクターの方が好きなんだよぁ、やっぱり」って思って、結局自分の趣味に近くなってしまいました。
あと自分の高校生活を振り返った時に真島ほどじゃないにしてもそういうヤツって必ずいて、女でも男でもずっと見てきたせいか、私の中では身近なキャラだったんですよ。そういう人って キャラも立っていたし、実際●●って、困るよねぇ」みたいなことも言っているんですけど、自分も付き合っていたっていうことは楽しかったんだなって思うんです。
奇矯な人全てを外しちゃうような共同体って、どうかなって思いますし、「フラワー」でもそうですけど、みんな真島のことを困ったやつだなって思いながら、何かをする時には声を掛けてやるみたいなところがあるじゃないですか。
私自身、漫研に入っていたんですけど、やっぱり漫研の中にも濃い薄いがあって、仮面じゃないですけど、一般的には学校に馴染んでいて、漫研に来た時だけ漫画の話をしている人と漫研以外でも漫画の話しか出来ない人がいるんです。そういう子ってサークルでも「どうなんだ、あいつの社会性は?」みたいな話にはなるんですけど、それはそれで愛すべきキャラなんですよ。だから真島みたいなキャラもアリかなと思って。

1巻までだと真島って結構普通のオタクだなって思ったんですけど、2巻からもうすごいですよね。特に武田さんに対して語るところとか(第6回)、飛ばしているなーって思ったんですけど、あれはキャラが勝手に動いてきたんですか?
だいぶリアリティのないキャラになってきましたね(笑)。やっぱり筆が乗ってくるとキャラクターが動いてくれるので武田さんとの絡みはむしろそれを期待してやったところはあります。

キャラクターに対するツッコミもそうなんですが、今迄の作品に比べて先生ご自身がかなり作中で説明をされるシーンがあると思うんですが、その点はどうですか?
基本的に今迄はあんまりモノローグを書かない描き方をしてきていたんですけど、今回は「動物のお話」(『ムシキング』佐々木倫子先生/白泉社)じゃないですけど、ちょっと説明でなんか入れようかなって思ったんです。あの作品も大学生モノっていうか、学園モノみたいなんで、なんか冷静なツッコミみたいなのが入る感じを漫研やコミケなどの説明に使えたらと思ったんです。実際コミケとかを真島が説明することになったら、ちょっとくどい感じになるかなと思って、そういうところを説明させる為に四角(『モノローグの コマのこと)を作りました。

もう一つ真島だと、「萌え」を語るときの演説というか、セリフがすごく多いですよね。
あれは中身よりも真島の傍若無人ぶりっていうか、誰も聞いていないにも関わらず、ずーっと喋っているというオタクっぷりを出すために描きました。

ちなみに真島をメガネにしたのはサービスですか?
メガネは私の萌えです。私1作品1メガネがいないと耐えられなくなるので(笑)。

太っているのもそうですけど、萌えポイントが多いですね(笑)。ところで先生の今迄の作品にはすごくカッコイイ男性がいっぱい出てきているわけなんですけど、先生自身のいい男の定義みたいなものって教えてもらっていいですか?
実はヒゲも好きなんです。「西洋骨董」を描いている時に「こんな幸せなことはない」と思ったのはヒゲ(稿)が描けたことです(笑)。ハゲ、ヒゲ、メガネ、そして太っていると4ツ揃っていると最高なんですけど、なかなかお目にかかれないですね。
私、アラーキー(写真家の荒木経惟氏)のルックスとか好きなんですよ。あの方はそんなに太っていませんけど、2次元だと「シティーハンター」(北条司先生/集英社)の海坊主。あの人も太っていないなくマッチョですけど、純情な感じのああいうキャラは好きです。サングラスも可(笑)。

「げんしけん」(木尾士目先生/講談社)の大野さんみたいですね。
あー、あの人もそうかも。でも「げんしけん」だと斑目の方が好きです、弱いから。意地っ張りなんだけど、脆いところを持っている、とっても人間味のあるキャラですよね。いわゆる人間として出来た人じゃないほう、どこかダメな人が好きなんですよ。それもなにか欠けているっていうレベルじゃなくて、全部、何もないほうが好きなんです。
そういった意味では「西洋骨董」に出てくる千影、彼は私にとって多分究極、あんないい萌えキャラを描かせてもらって本当に良かった(笑)。彼は本当に何にも出来ない人、心が清い以外は美徳がないっていう究極のキャラですね。
漫画の中でもいい男ってなんだかんだ言ってやっぱり仕事だったり勉強やスポーツができなきゃいけないって思うんです。だけど例えば女の子だとドジっ子キャラっていうのがあって、例えば喫茶店のウェイトレスだったら本当に何にもできなくてごめんなさいって泣いてるんだけど顔だけ可愛いみたいなキャラがいるじゃないですか、あれを男で描いてみたいって思ったんです。何にも出来ないんだけど顔と性格だけがいい男が描きたいなと思って。

もう一人気になるキャラといえば、武田さんだと思うんですけど、彼女は男性読者に対する萌えキャラですよね。
実は武田さんは途中から考えたキャラなんです。共学だから漫研に女の子を入れてみようと思ったんですけど、どうせなら真島に負けないキャラということで、イメージ的には仲間由紀恵さん、『RIKI』の仲間さんのイメージで考えました。
萌えキャラかどうかはどうなんでしょう? 私自身は武田さんには萌えなんですけど、メインの読者である女の子からすると、武田さんはどちらかと言えば面白キャラになるのかな～と思って描いています。

先生ご自身のお気に入りのキャラって誰ですか?
やっぱり見た目的に翔太が好きなんですけど、私、滋が不倫をしてる相手の小柳先生が好きなんじゃないかと思うんです。彼、段々と情けない事になっていくので。
「西洋骨董」を描いた時も橘が好きだったんで、そういう普通の大人の男の人の情けない姿というか、弱いところが多分好きなんです。
普通に平気な顔している人がどっかでポロッと出す弱さ、特に大人の男の人は隠すというか出さないようにしているじゃないですか、そんな人から弱さがポロッと出てくる瞬間、それこそが萌え～っていう感じですね(笑)。

「それを言ったらおしまいよ。」(太田出版)も読んだんですけど、あの短編集の中に出てくる人たちも弱さを出さないように我慢していますよね。
この短編集の最後に「ピアニスト」っていう漫画があるんですけど、それとかが私の萌えス濃度高かもぁ。ああいう才能を失ってしまったピアニストの話みたいな、何もかも奪われてしまった人の最期のプライドさえも奪われていくみたいな話が好きなんです。

連載を始める際にどれぐらいの長さで描くか考えていましたか?
始めは3巻構想でした。1学期で1巻、2学期で2巻みたいに考えていたんですけど、2巻で文化祭が盛り上がったのと武田さんがいい感じだったので、2巻で2学期が終わらなかったんです。それで今では4巻構想に直しました。
たまにサブキャラの話とかも考えているんですけど、オチというかエンディングはいまのところブレていないんで、そこに向けてどう描いていくかを考えつつ描きすすめています。

作品を描いていてターニングポイントと言うか、手応えを掴んだ回ってありますか?
いいデブ悪いデブの話(第3話)かな。あの話は一回ケンカして仲直りする、雨降って地固まるみたいなエピソードなんですけど、この話を通じて春太郎と翔太の関係は強くなったかなって思います。
しかも二人が最後に仲直りするところもそうなんですけど、結局お互い分かり合えているわけじゃないんですよ。春太郎は翔太の本当に恥ずかしかった気持ちがどうだったのかって分かっているわけじゃないですし、結局お互いの考え方は全然変わっていないんですけど、でも二人ともお互いが大好きなんだよっていうことが確認しあえたからいいやみたいな、そういう感じなんです。
分かりあえないけどいい関係、でも人間関係ってみんなそうじゃないですか。本当のところ他人のことって分からないけど、でもその暖かい気持ちだけは分かるみたいな、二人のお互いを思う気持ちみたいなものを描くことが出来た回だと思っています。
それと相沢さんが主役の甲子園古墳の話(第4話)ですか。あの話でそれまで3人だけの話だったのがクラスみんなの話に、群像劇になることが出来たと思います。
この話ではやっぱり春太郎の意見っていうのは一意見でしかないみたいな、なんかこうみんなはみんなでそれぞれバラバラのことを考えているんだよっていう感じのことが言いたかったんじゃないのかなと思うんです。しかも最後に悪ノリでパーティーをやって真島のことをますます怒らせる、そういう高校生ならではの余計な行動、目的よりも手段が楽しくなっちゃう感覚、みんなとつるんでいる事自体が嬉しくて目的を忘れちゃうといった感じが描きたかったのだと思います。もう一つこの話では真島も所詮高校生というか、子供なんだってことも描きたかったのです。
あとやっぱり武田さんという真島に対抗できるキャラの登場でしょうね。特に文化祭の話では彼女のおかげでだいぶ群像劇らしくなったんじゃないかと思います。

この作品で一番描きたいことって何ですか?
子供が大人になるってことに尽きるのかな。1年間ですけど子供が成長する姿だったり、高校時代の本当にごちゃごちゃした独特の空間だったり、そんなことが描けたらと思います。
高校生活って毎日の友達との人間関係でいっぱいいっぱいになっているだろうし、私もそうでしたけど、思春期って苦しいと思うんです。でもその苦しい思春期を送っている人達に後から見るとそんなに悪いもんでもないだよっていうことを伝えることが出来ればと思っています。

最後に読者へのメッセージをお願いします。
基本的に自分の漫画がどんな人にどういう風に読まれるかは全く想定できない性質なので、男性でも女性でも読んでくださればそれだけで嬉しいです。自分がこうして描いている中で、これが見所ですとか自信を持って言えるようなところが特にないので、読んだ方たちがそれぞれどこか面白いと思ってくれたら、気の合うところで楽しんでもらえればいいなと思っています。これからもよろしくお願いします。

© よしながふみ／新書館・ウィングス